

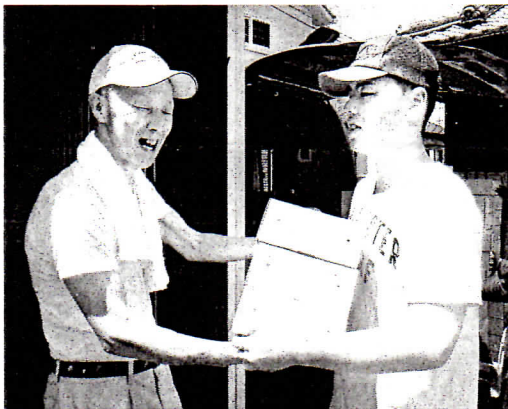
元気で躍進
地域経済

非常食など「白い小箱」
鎌田北自治会、各戸に

「あゆか」が詰め込み作業

松阪市鎌田町の鎌田北町自治会（國分稔自治会長、100戸）は、水や非常食など災害用物資を詰めた「白い小箱」105箱を購入した。箱の中の物資の詰め込み作業などは同町の障害者支援の生活介護サービス事業所「あゆか」（飯田あゆみ施設長）が実施。24日には飯田施設長や施設利用者らによって納品された。

法人・日本非常食推進機構（本部＝四日市市、古谷賢治代表理事）が推進。非常食などの備蓄を呼び掛けるものとして、災害用物資を詰め合わせた



取り組みの中では、箱詰め作業や納品を地域の障害者施設などで行うのが特徴。防災と同時に障害者のやりがいづくりや自立支援にもつなげて

自分たちで箱詰めした小箱を國分自治会長に手渡す大野さん（右）
鎌田町で
「白い小箱」を自治会や企業などに販売している。

あゆかでは、2013（平成25）年の開設直後から同運動に参加。利用者が箱詰めなどの作業を行い、自治会や学校、企業などへの納品にも同行している。今回は、飯田施設長ら職員2人と、利用者の大野晃さんの3人が納品に。水や食料が入った箱を國分さん宅に届けた。

同自治会では各戸に配布して災害に備える。飯田施設長は、「他の障害者施設との連携や、納品先との新たなつながりもできれば」と話している。